

第1項

交通体系の整備促進



目 標	交通渋滞のないまち	
数 値 目 標	都市計画道路整備率 ^{※103}	2005年 60.7%
		2011年 62.5%
	福山市内渋滞損失時間 ^{※104}	2005年 1,375万人時間
		2007年度に設定

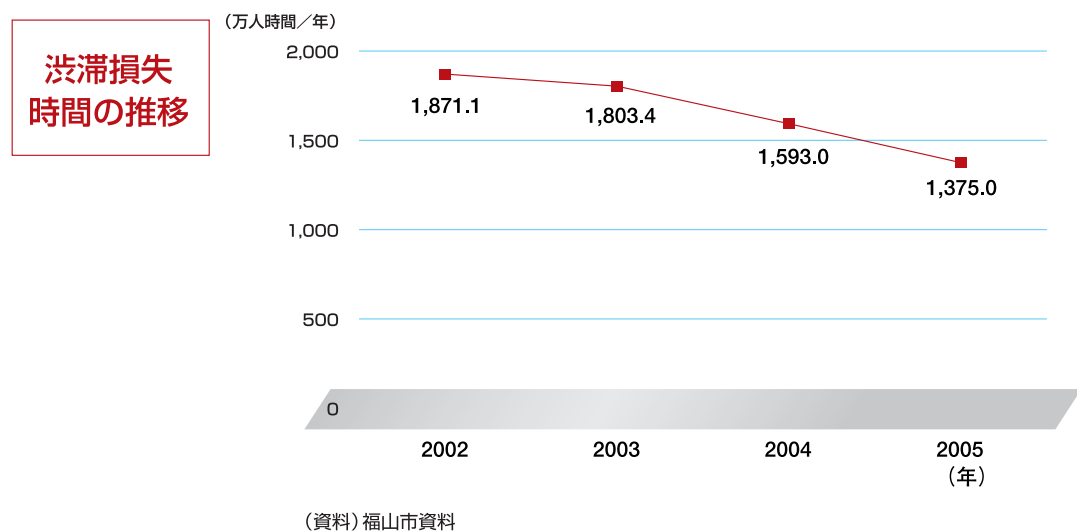
取り巻く環境(現状と課題)

恵まれた立地特性を活かしたまちづくり

本市は、瀬戸内の中央に位置しており、高速道路や鉄道、海上交通など広域交通の要として、また、中国・四国地方の交流・物流拠点として高い潜在能力があります。今後は、こうした立地特性を活かしたまちづくりが必要です。

道路の渋滞緩和

市内の幹線道路は、朝夕の交通渋滞が慢性的に発生しています。快適な市民生活を確保するためにも、渋滞を緩和する道路整備が必要です。



103 都市計画道路整備率:都市計画道路供用済延長÷都市計画道路計画決定延長
104 渋滞損失時間:年間に渋滞の影響を受けた人数×時間。福山地域都市交通円滑化推進計画策定委員会で設定。

「目標」を達成するための取組

幹線道路網の整備

市民生活や社会・経済活動、都市間交流などの基盤となる放射・環状型の幹線道路網の整備を促進し、都市の拠点性の強化と交通渋滞の緩和により快適な生活環境をつくれます。

- 福山道路の整備
- 福山西環状線の整備
- 福山沼隈道路の整備
- 都市計画道路の整備

交通ターミナル機能の強化

鉄道や高速バスなどのターミナル機能を強化します。

- 広域輸送の機能強化
- 空港の利活用の促進



入江大橋



福山・福山沼隈道路IC付近イメージ図

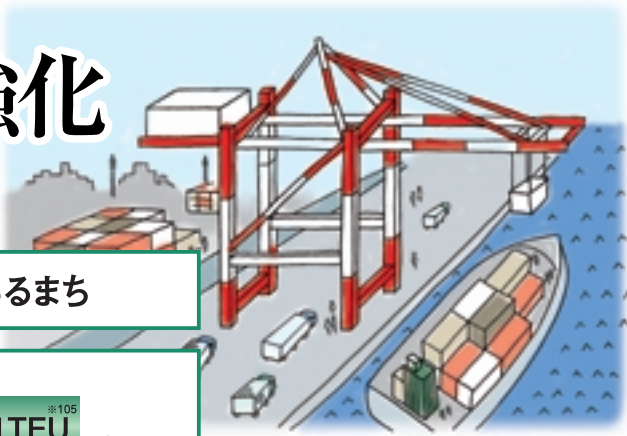
市民として



公共交通機関をみんなで支え育てましょう。

第2項

港湾機能の強化



目標	多くの人とモノでにぎわう港のあるまち	
数値目標	福山港コンテナ取扱数	2005年 78,181TEU ^{※105}
		2011年 100,000TEU

取り巻く環境(現状と課題)

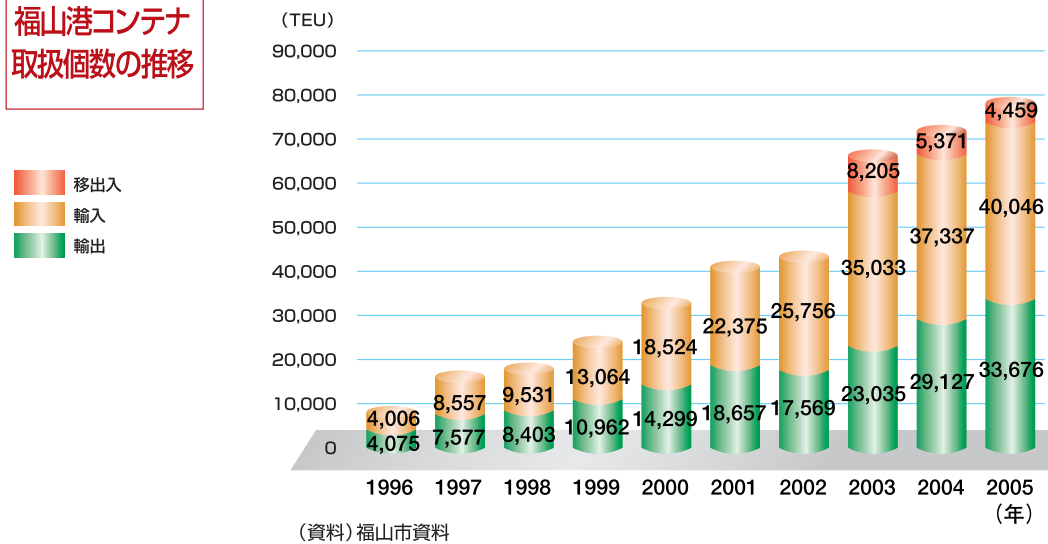
国際的な港湾としての期待の高まり

本市は、国際コンテナターミナルの開設により物流拠点としての重要な役割を担っています。都市の発展のため、増大する貨物取扱量への対応や動物検疫港の指定など、多様な利用ニーズに対応した港湾の流通機能の強化が必要です。

港湾の交流拠点ニーズの増大

これからの港湾施設は、物流拠点としてだけでなく、都市内におけるウォーターフロントとしての貴重な公共空間であり、人が集まりにぎわいのある交流拠点機能の整備が必要です。

福山港コンテナ取扱個数の推移



105 TEU:Twenty-Feet Equivalent Unitの略。コンテナ取扱個数の単位。コンテナの長さが約6mのコンテナが1TEUに相当する。

「目標」を達成するための取組

物流拠点機能の強化

国際コンテナターミナルなど各港湾の整備を促進し、物流拠点としての機能を強化します。

○ 港湾の整備

交流拠点機能の整備

※106 鞆地区や内港地区の整備を進め、人が集まり、にぎわいのある交流拠点としての機能を強化します。

○ 交流拠点の整備



福山港箕沖地区国際コンテナターミナル整備



鞆地区道路港湾整備



福山港箕沖地区国際コンテナターミナル第1バース



尾道糸崎港機織地区港湾整備イメージ図

106 内港地区:リーデンローズ東側埋立地で、県と市が整備を進めている福山港の一部。現在の港町二丁目付近のこと。

第3項

情報機能の充実



目標 ITをまちづくりに活用した生活の利便なまち

数値目標	市ホームページアクセス件数	2005年度 1,362,000件
		2011年度 2,000,000件

取り巻く環境(現状と課題)

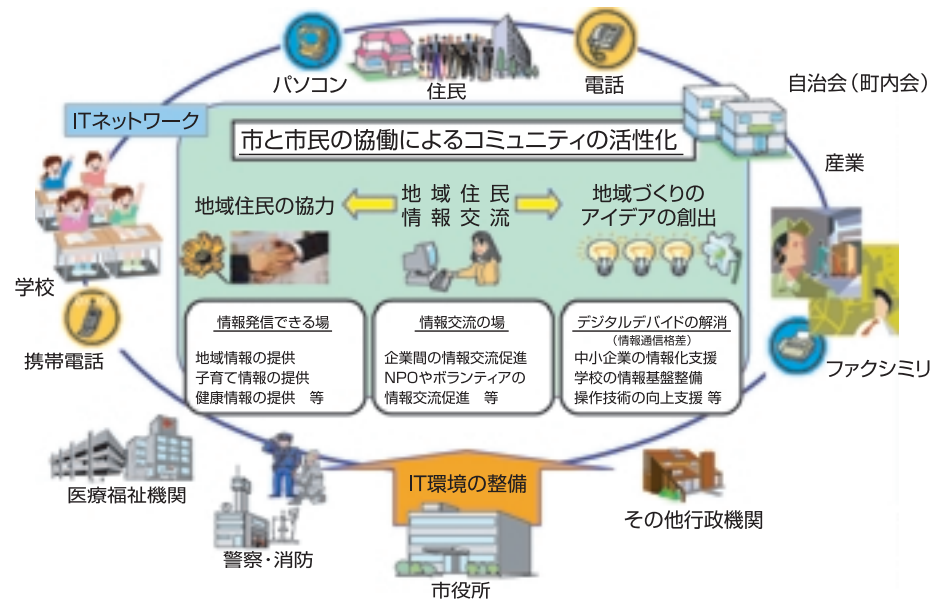
ITを活用した地域社会づくり

情報化社会が進展し、市民の生活スタイルも変化しています。地域の活性化のため、市民などへITを活用したコミュニケーションの場を提供し、市民との協働によるまちづくりの支援が必要です。

ITを活用したビジネス環境づくり

インターネットを利用したビジネスが身近になり、消費者の行動なども変化しつつあります。そのため、産業における情報化の推進や環境整備への支援が必要です。

地域の情報化・産業の情報化



「目標」を達成するための取組

地域における情報化の推進

市民がITを利用しやすい環境づくりや地域の活性化のため、電子アンケートの実施や電子コミュニティの検討を進めます。

- 地域におけるコミュニケーションの場の提供

産業における情報化の推進

地域経済の活性化のため、地元企業の独自技術などのデータベース化による情報発信や商工会議所などと連携し、企業の最先端技術などを研修会や講演会で紹介する取組を進めます。

- 情報化の環境整備の支援
- 情報化研修会・講演会の開催



公民館に設置した公共端末

市民として

情報化の研修会などに積極的に参加しましょう。

第4項

国際化の推進



目標	市民が世界の人々とともに生きるまち	
数値目標	異文化理解交流事業の参加者数 ^{※107}	2005年度 1,203人
		2011年度 2,000人以上

取り巻く環境(現状と課題)

異文化理解の必要性の高まり

本市では、外国人が年々増加しています。そのため、異なる歴史観や生活スタイルなどを理解し、共生できる国際感覚を身に付けることが必要です。

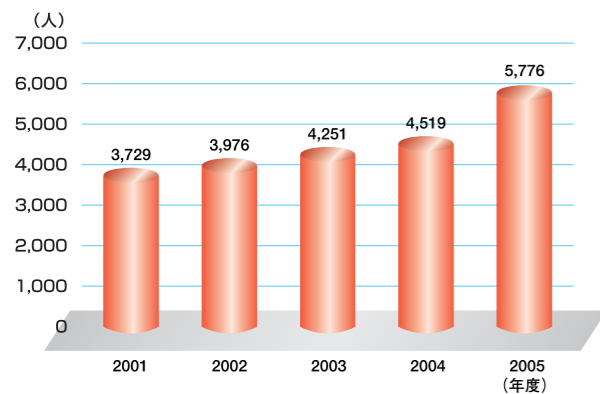
外国人が暮らしやすいまちづくり

国際交流団体などとともに、市民が外国人と身近に交流ができる仕組みづくりや、日本語教室の開催など生活面でのサポートや相談体制の充実が必要です。

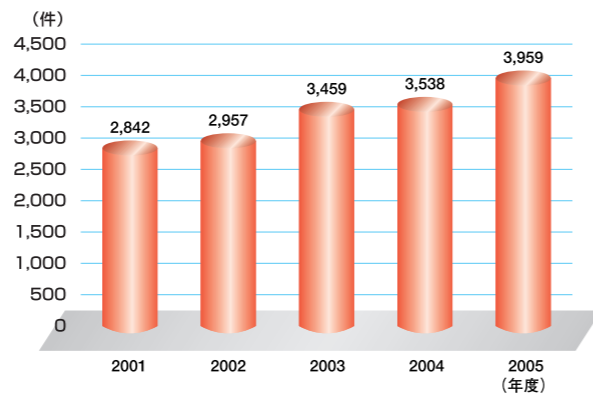
国際親善友好都市などの交流^{※108}

本市は、国外3都市と親善友好都市の提携をしています。今後も、経済、文化など様々な分野で市民レベルの国際交流を促進することが必要です。

外国人登録者数の推移



外国人相談件数の推移



(資料) 福山市資料

107 異文化理解交流事業:在住外国人等を講師に招き、自国の文化などを紹介し、国際理解を深める事業のこと。
108 国際親善友好都市:親善友好都市の提携をしている、ハミルトン市(カナダ)、浦項市(大韓民国)、タクロバン市(フィリピン)の国外3都市のこと。

「目標」を達成するための取組

国際交流の推進

ふくやま国際交流協会を始め、国際交流団体などとともに、様々な交流ができる環境づくりや人材の育成を進め、市民レベルでの国際化を進めます。

- 国際交流の推進
- 海外青年の招致
- 国際理解の推進

多文化共生の推進^{※109}

外国人住民が生活しやすように、生活ガイドブック、外国語情報誌の作成や日本語教室の開催など、生活全般にわたって外国人住民の自立に向けた支援に努めるとともに、住民に多文化共生の意識啓発を推進していきます。

- 外国人と共生するまちづくり



国際交流の推進



日本語スピーチコンテスト



異なる歴史や文化を理解しましょう。

109 多文化共生:国籍や民族など異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら地域社会の構成員としてともに生きていくこと。